

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第17回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第18回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第19回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第20回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第31回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第32回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第33回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第34回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第35回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第46回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第47回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第48回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第49回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第50回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第61回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第62回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第63回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第64回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第65回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第76回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第77回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第78回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第79回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第80回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第91回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第92回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第93回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第94回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第95回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時間	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第106回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第107回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第108回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第109回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第110回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第121回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第122回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第123回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第124回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第125回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第136回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第137回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第138回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第139回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第140回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第151回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第152回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第153回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第154回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第155回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第166回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第167回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第168回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第169回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第170回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第181回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第182回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第183回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第184回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第185回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科 目 名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対 象 学 年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第196回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第197回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第198回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第199回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第200回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第211回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第212回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第213回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第214回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第215回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第226回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第227回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第228回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第229回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第230回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	生命工学技術科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義・実習・演習
科目名	学外実務研修		必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	510 (17) 時間(単位)
対象学年	バイオサイエンス専攻 3年		学期及び曜時限	前期	教室名	
担当教員		実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
バイオサイエンス分野の企業や大学、公的機関等と連携し、実践的に技術・知識を向上させ、社会人となる準備を進めるとともに、即戦力足り得る人材となる。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 研修報告書・研修日誌・報告会・結果による評価:70% 2. 研修態度・研修先評価:10% 3. 出席状況:20%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
・研修日誌 ・研修先で必要な書類一式						
《授業外における学習方法》						
・製作物、課題等の対応、プレゼンテーションの準備						
《履修に当たっての留意点》						
学外実務研修は、これまで身に付けた技術・知識を向上させ、実践力を高め、即戦力足り得る社会人を目指す良い機会となる。課題・製作物、結果を意識して取り組むことを望む。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 241 回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 242 回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 243 回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 244 回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			
第 245 回	実習形式	授業を通じての到達目標	提携先・研修先で学ぶ知識・技術について理解し実践できる。提携先・研修先からの課題を完遂できる。自らの課題を改善し結果を導き出せる。	研修日誌 報告書 結果(途上)	研修内容・課題等に即して、実験・研究・まとめ・報告(発表)等の準備を行うこと。	
		各コマにおける授業予定	提携先・研修先または自らの課題に対応した実験・研究・実務および学習			

